

どんまネコ

昔のことや。

このあたりが富田の浜（今の四日市市東富田）と呼ばれておった頃で、十四川や新川はヨシがようけ茂って、川の口まで続いとった。漁師の家も、権現さん（鳥出神社）のはたに四十軒ばかりあっただけやった。

ここの漁師らは、朝早うから船で沖へ出て、サンメ（さめ）やイワシクジラを追うて日暮れには浜に戻ってきたもんや。

その頃の漁は、キンチャクあみ（アグリ漁）いうてな、浜まで来ると、漁師の家のものは、おなごしや子供までみんなが浜に出て、そのアミの綱をヨイショ、ワウイショいうて引っ張ったもんや。

いつのころからか分らんのが、キンチャクあみを上げて浜の仕事が終わる時分になると、新川のヨシの間から、ぬうっと大きなネコが顔を出すようになったんや。人間の子供ぐらいのやつでな。浜のものが家へ引き上げるのを待ってゴソゴソ寄ってくるのや。浜に落ちとる魚を拾いに来るのや。

ところでや、この大きなネコのやつが、魚をくわえて帰ってく時のカッコウがおもしろいのや。五、六歩行くと、こっちをふりかえってうなりだし、また五、六歩行って、こっちを振り返ってうなりを出すのやが、顔がタヌキそっくりやし、ブタみたいに肥えとるので、あいきょう

があるのや。

大きなネコのやつは、浜におる人間をおどしとるつもりやろが、けっ
たいなかつこうでうなるもんやで、浜の者はわろうとるだけや。

芭までキンチャク網を引く日は、決まってやってくるのやが、ある日、
帰りがけにあわてたんやろな、網に足を引っ掛けてもがいとるのや。

漁師がそばへ寄ってくと、うなりを出して脅すのやが、大きなネコの
格好がけったいなもんやで、だれもこわがらんのや。

「ネコがばけたんか、タヌキがばけたんか知らんけど、どんまなやつ
や。」

浜の者は、そういうて魚をくれてはなしてやったんや。

それからは、大きなネコが顔を出すと、子供らまでが、

「どんまネコが来た。」

とわらいもんにしたもんや。

再話・池田 昭